

『ちょっと!?いつまで待たせるわけ!?
リハーサルからこんな調子で
当日成功するわけ無いでしょ?!』

『そのあんた!!』

『さっきっから段取り
悪いのよ!!周り
見て見なさいよ』

このミスコンは今の私にとって
とても重要な意味を持っている

『それともあんた...
私の将来がかかったこのミスコン
台無しにして責任が取れるわけ?』
「すみません...」

私には
叶えなければならない
夢がある

女子アナウンサーになる

そのためにもこのミスコンで
優勝し私の美貌をこの世に
知らしめる必要がある...!!

こんなトロい奴に人生台無しにされちゃ
たまったもんじゃないわ!!

『申し訳：御座いませんでしたっ…!!』

『うちのから話は聞いてるよ』

芳野みうちちゃん♡

随分世話になったそうじゃないか』

迂闊だった…
先週のリハーサルで
注意したあの委員会の生徒…



その叔父がテレビ業界の
権力者だったなんて…!!

「女子アナになりたいそうじゃないか
みうちちゃんは♡」

「私が上に言っただけでもないんだがね
どうだい？少しは反省したかな？」

『何もこんな恰好させなくても…!!』

女の子にこんな恰好させて…
悪趣味で最低なこんな奴に
謝罪しなきゃいけないなんて
一生の汚点っ!!

『条件…?』
「まあいいだろう条件を飲めば
元通りミスコンでも女子アナでも
勝手にすればいい 何なら
多少融通してやることも出来るぞ？」

「ミスコンまでの期間
私の性処理をしる
それが条件だ」

!?

「出来ないか？
それならお前の人生もここまで
だぞ？お前のような女なぞ
いくらでも変えが効くからなw」

断ればミスコンも女子アナも…
私の夢全部が無くなっちゃう
こんなくだらない男のために…
そんなの…

「わ…わかったわ!!やるわよ
ただし本番とキスは無しにしてっ!!
それ以外なら言う事聞くから!!
それでいいでしょ?」

ブルンッ

「なっ…そんなっ最低!!
女を何だと思って…」

初めて見る男のソレ…
想像してたよりずっと
大きくて…凶悪な形
こんなのを相手に
性処理なんて…

ぷち

あゝ

ぷち

ん♡

「何を偉そうに言ってるんだ
頼み方ってものがあるだろ
性処理要員としての自覚をもて
みう」

「お…お願いします…
オマ…コとキスは…
まだいたことが無いので
許してください…それ以外は
何でもしますから」

「はははwwやれば出来るじゃないかw
まあいいだろう
その分たっぷり私を楽しませろよ?」

あゝ♡

「記念にその顔に射精してやる
しっかり受け止めろ」

最悪だ…こんな男の欲望の
捌け口にされるなんて
でも…

これも全部
夢のため…

「はははWその可愛い顔に
精液は映えるなW
教えた通り性処理雌口上だ」

「調子に乗ってた雌豚に
ザーメン下さり…ありがとうございます…」

ハ
ロ
オ

はー

はー

はー

「よし♡これから毎日
付き合ってもらうからな
立派なメス豚にしてやるぞみう♡」

それから毎日
この男の欲望のまま
身体を開発され尽くした…

お♡

お♡
ら♡
え♡

ググ…

お♡
お♡
♡♡

「ほらみうつ!!
いま何個入ってるんだ?
ちゃんと数えてるのか?」



一番敏感な所には
パイプを当てがわれ…
お尻の穴に入っている玉の数を
数えさせられる…

「大学生にもなって
算数も出来ないのか？w」

「そんなに女子アナなんかにな
れるわけないだろw…」
お前は男の性処理担当の
雌豚が一番似合ってるぞ？」
体験したことのない快感に
押しつぶされそうになりながら
出し入れされる玉の数を
数えようとすると…

余計にお尻の穴に
集中してしまい
快感を強く感じてしまって
また絶頂してしまう…

おほおほ
おほおほ

今日はもう何度も何度も
お尻でイってしまっている
ミスコンまでの期間中
私は処女のまま身体の
隅から隅までこの男に
開発され続け…

「やり直したみう
出来るまで何度も
ケツ穴ほじり終わらんからな」

ポポポポ
ポポポポ

ググ
ググ
ググ

「似合ってるぞ♡みう♡」

はっ♡

『えへへっ♡ご主人様♡
みうにこんな可愛い衣装用意してくださって
ありがとうございます♡みうは幸せ者です♡』

私はミスコン会場には
行かなかった

はっ♡

はっ♡

「いい子だなみう♡
お前は私の何だ？言ってみろ」

『みうはご主人様の性欲を処理するための
雌穴オナホです♡
今日もこんな下品な格好させられて
オマ●コ濡らして大喜びしてます♡♡』

びん♡
びん♡
びん♡

はっ♡

…もっと大切な
用事があったから♡

ご主人様に変えられた私の身体は
もうすっかり二匹の雌になっていた

人前では絶対着れないような
男から性的に見られる為だけに
作られたような…裸より卑猥な
恰好をして…

びん♡

はっ♡

ご主人様の前で媚びるだけで
条件反射で下半身が疼いて
頭がクラクラして…
ご主人様のことしか
考えられなくなっちゃう♡…

「よしよし♡こっちに來いみう
ご褒美をやるぞ♡」

『ご褒美って…』



「ご褒美は私のチ●ポだ♡
好きな所に挿れていいぞ♡」

あ♡♡

おちぽ♡

「但し私の性処理要員として、
一生尽くすこと、
それがご褒美の条件だ」

「一生…性処理要員…♡」

そんなの…
こんな立派なオチン●ン
見せつけられながら
言われちゃったら…♡

断れるわけ
ないっ♡♡♡

お♡
ズッポ♡

ほ♡
お♡

「おお♡♡処女を捧げて
いったかw
卑しい雌穴だな♡」

そんなこと
言われたって…♡

このオチ○ポー

気持ち良すぎるっー♡♡

『全く女つてのははちよろいなw
どれだけ取り纏っていても
下半身には抗えない所詮メスだ』

性処理
パコ
パコ
パコ

オチ○ポ
パコ
パコ
パコ

『ミスコンだ女子アナだ
のたまってたみうも
今ではチ○コを食る
下品な雌豚だ♡』

『出会った頃はあんなに
威勢が良かったのにな♡』

『はっはっ♡♡
ドMな雌がいきがって
すみませんでした♡
みうの締りの無いオチ○ポ穴
もつと犯して下さい♡
旦那様ああ♡♡』

『旦那様が♡いいだろう
私の性処理妻として
飼ってやるぞみう♡』

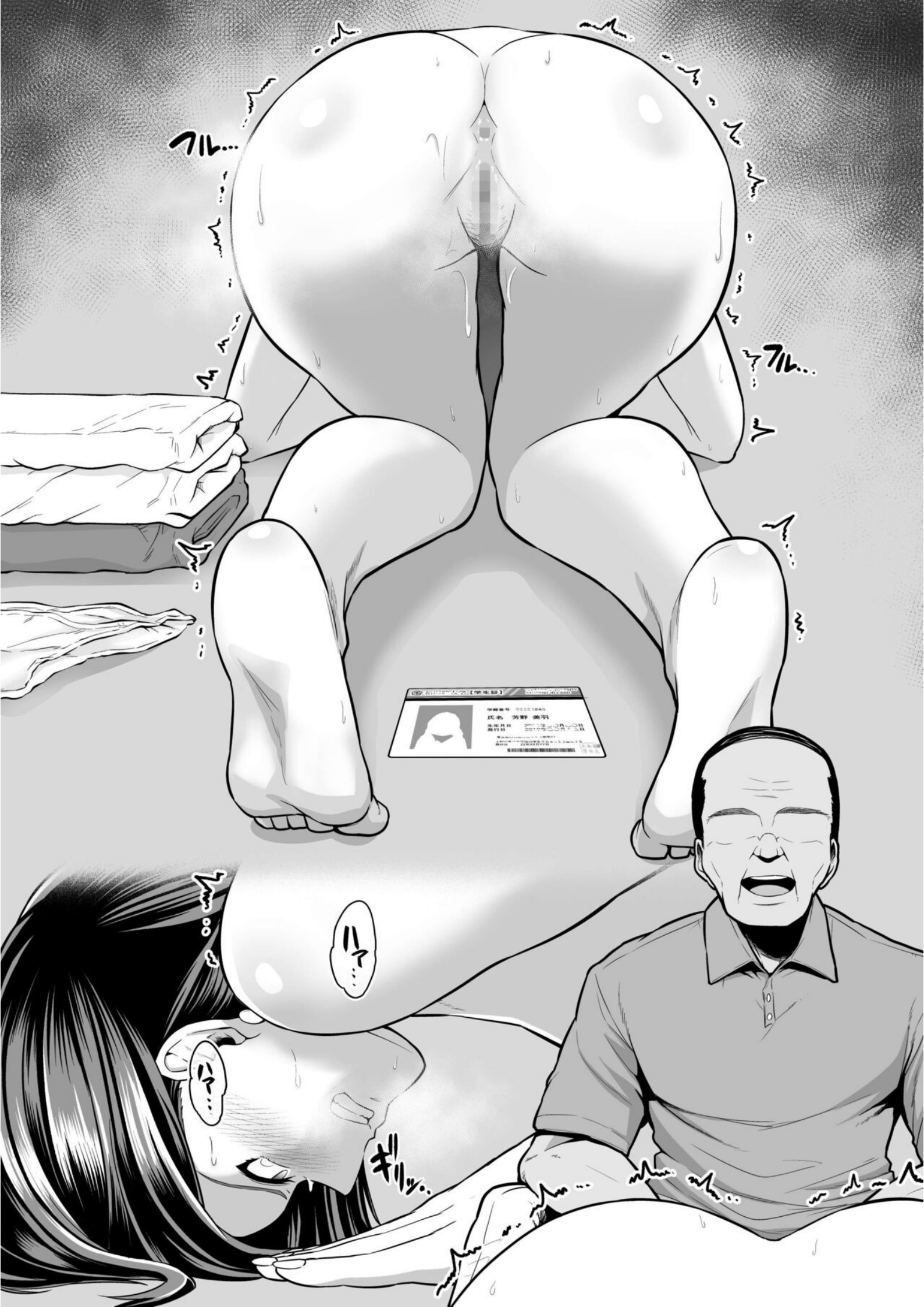
『嬉しいですう♡
大学も女子アナも全部捨てて
旦那様のモノになります♡
一生可愛がって下さい♡』

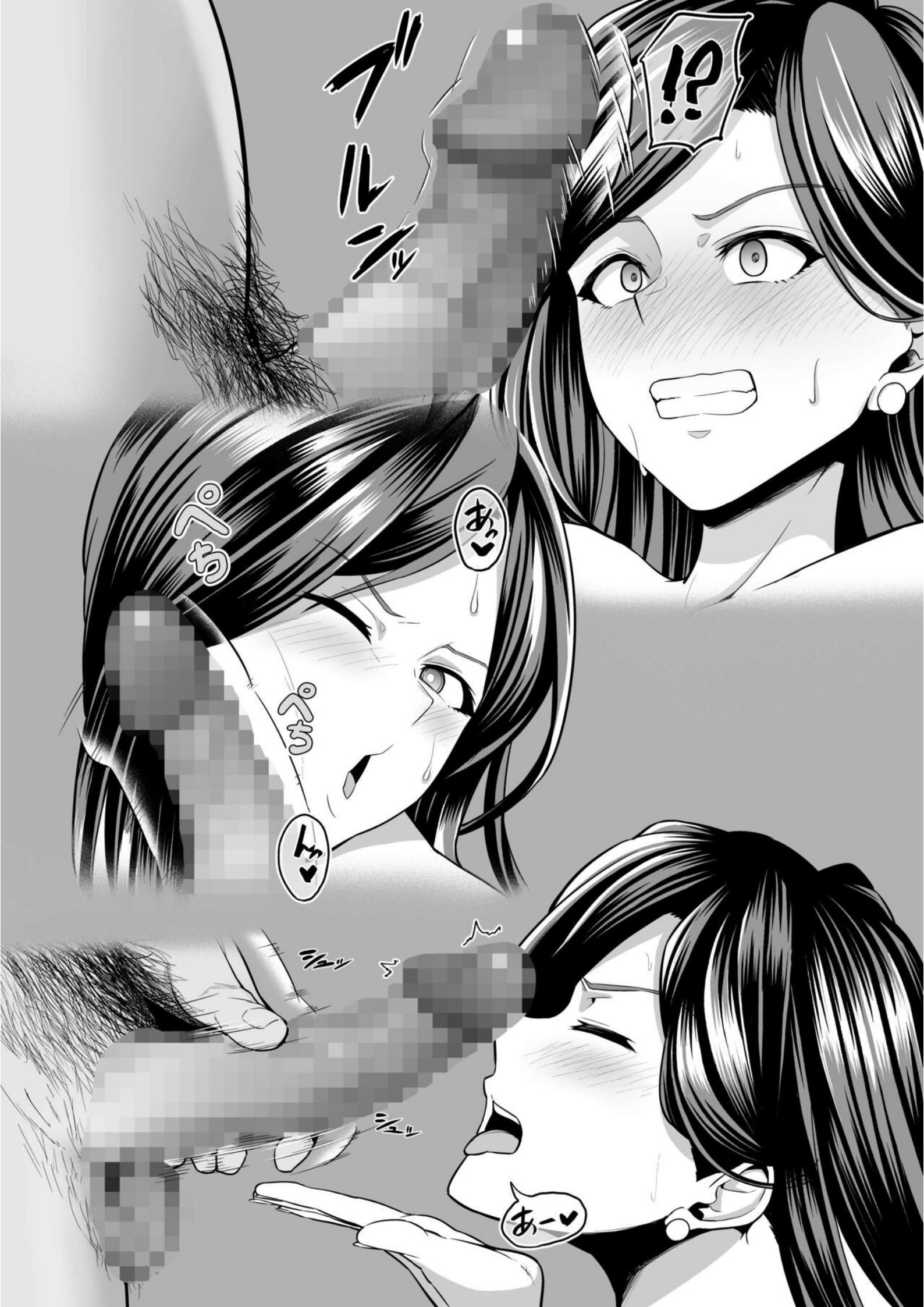
この日私の夢は書き換えられた
以前よりももっと幸せな
オチ○ポとしての悦びに♡♡

しゅきい♡
オチ○ポ♡
しゅきい♡

旦那様♡
もっろお♡
もっろして♡

















『ちょっと?!いつまで待たせるわけ?!
リハーサルからこんな調子で
当日成功するわけ無いでしょ?!』

『そのあんた!!』

『さっきっから段取り
悪いのよ!!周り
見て見なさいよ』

このミスコンは今の私にとって
とても重要な意味を持っている

『それともあんた...
私の将来がかかったこのミスコン
台無しにして責任が取れるわけ?』
「すみません...」

私には
叶えなければならない
夢がある

女子アナウンサーになる

そのためにもこのミスコンで
優勝し私の美貌をこの世に
知らしめる必要がある...!!

こんなトロい奴に人生台無しにされちゃ
— たまったもんじゃないわ!!

『申し訳：御座いませんでしたっ…!!』

『うちのから話は聞いてるよ』

芳野みうちちゃん♡

随分世話になったそうじゃないか』

迂闊だった…
先週のリハーサルで
注意したあの委員会の生徒…



その叔父がテレビ業界の
権力者だったなんて…!!

「女子アナになりたいそうじゃないか
みうちちゃんは♡」

「私が上に言っただけでもないんだがね
どうだい？少しは反省したかな？」

『何もこんな恰好させなくても…!!』

女の子にこんな恰好させて…
悪趣味で最低なこんな奴に
謝罪しなきゃいけないなんて
一生の汚点っ!!

『条件…?』
「まあいいだろう条件を飲めば
元通りミスコンでも女子アナでも
勝手にすればいい 何なら
多少融通してやることも出来るぞ？」

「ミスコンまでの期間
私の性処理をしる
それが条件だ」

!?

「出来ないか?
それならお前の人生もここまで
だぞ? お前のような女なぞ
いくらでも変えが効くからなw」

断ればミスコンも女子アナも:
私の夢全部が無くなっちゃう
こんなくだらない男のために:
そんなの...

「わ...わかったわ!!やるわよ
ただし本番とキスは無しにして!!
それ以外なら言う事聞くから!!
それでいいでしょ?」

ブルンッ

「なっ...そんなっ最低!!
女を何だと思っ...」

初めて見る男のソレ:
想像してたよりずっと
大きくて...凶悪な形
こんなのを相手に
性処理なんて...

ぷち

あゝ

ぷち

んゝ

「何を偉そうに言ってるんだ
頼み方ってものがあるだろ
性処理要員としての自覚をもて
みう」

「お...お願いします...
オマ...コとキスは:
まだいたことが無いので
許してください...それ以外は
何でもしますから」

「はははwwやれば出来るじゃないかw
まあいいだろう
その分たっぷり私を楽しませろよ?」

あゝ

「記念にその顔に射精してやる
しっかり受け止めろ」

最悪だ...こんな男の欲望の
捌け口にされるなんて
でも...

これも全部
夢のため…

「はははWその可愛い顔に
精液は映えるなW
教えた通り性処理雌口上だ」

「調子に乗ってた雌豚に
ザーメン下さり…ありがとうございます…」

ハ
ロ
オ

はー

はー

はー

「よし♡これから毎日
付き合ってもらうからな
立派なメス豚にしてやるぞみう♡」

それから毎日
この男の欲望のまま
身体を開発され尽くした…

お♡

お♡
ら♡
え♡

ググ…

お♡
お♡
♡♡

「ほらみうつ!!
いま何個入ってるんだ?
ちゃんと数えてるのか?」



わかんない♡

あ♡

おしりめ♡

「大学生にもなって
算数も出来ないのか？w」

ハッ

あッ

ハッ

ガッ

ガッ

「そんなに女子アナなんかにな
れるわけないだろw...」
お前は男の性処理担当の
雌豚が一番似合ってるぞ？」

体験したことのない快感に
押しつぶされそうになりながら
出し入れされる玉の数を
数えようとすると...

一番敏感な所には

パイプを当てがわれ...

お尻の穴に入っている玉の数を
数えさせられる...

余計にお尻の穴に

集中してしまい

快感を強く感じてしまって
また絶頂してしまう...

おほまお♡

!!

ブホホホ♡

「やり直したみう
出来るまで何度も
ケツ穴ほじり終わらんからな」

今日はもう何度も何度も
お尻でイってしまっている

ミスコンまでの期間中
私は処女のまま身体の
隅から隅までこの男に
開発され続け...

ミスコン当日ー

「似合ってるぞ♡みう♡」

はっ♡

はっ♡

『えへへっ♡ご主人様♡
みうにこんな可愛い衣装用意してくださって
ありがとうございます♡みうは幸せ者です♡』

私はミスコン会場には
行かなかった

はっ♡

はっ♡

「いい子だなみう♡
お前は私の何だ？言ってみろ」

『みうはご主人様の性欲を処理するための
雌穴オナホです♡♡
今日もこんな下品な格好させられて
オマ●コ濡らして大喜びしてます♡♡』

びん♡
びん♡
びん♡

はっ♡

…もっと大切な
用事があったから♡

ご主人様に変えられた私の身体は
もうすっかり二匹の雌になっていた

人前では絶対着れないような
男から性的に見られる為だけに
作られたような…裸より卑猥な
恰好をして…

びん♡

はっ♡

ご主人様の前で媚びるだけで
条件反射で下半身が疼いて
頭がクラクラして…
ご主人様のことしか
考えられなくなっちゃう♡♡

「よしよし♡こっちに來いみう
ご褒美をやるぞ♡」

『ご褒美って…』

「ご褒美は私のチ●ポだ♡
好きな所に挿れていいぞ♡」

あ♡♡

おちぽ♡

「但し私の性処理要員として、
一生尽くすこと、
それがご褒美の条件だ」

「一生…性処理要員…♡」

そんなの…
こんな立派なオチン●ン
見せつけられながら
言われちゃったら…♡

断れるわけ
ないっ♡♡♡

おっ♡
ズッ♡
ホ♡

ほ♡
お♡

「おお♡♡処女を捧げて
いったかw
卑しい雌穴だな♡」

そんなこと
言われたって…♡

このオチ○ポー

気持ち良すぎるっー♡♡

「全く女つてのははちよろいなw
どれだけ取り纏っていても
下半身には抗えない所詮メスだ」

「ミスコンだ女子アナだ
のたまってたみうも
今ではチ○コを食る
下品な雌豚だ♡」
「出会った頃はあんなに
威勢が良かったのにな♡」

『はっはっ♡♡
ドMな雌がいきがって
すみませんでした♡
みうの締りの無いオナホ穴
もつと犯して下さい♡
旦那様ああ♡♡』

「旦那様が♡いいだろう
私の性処理妻として
飼ってやるぞみう♡」

「嬉しいですう♡
大学も女子アナも全部捨てて
旦那様のモノになります♡
一生可愛がって下さい♡」

この日私の夢は書き換えられた
以前よりももっと幸せな
オナナとしての悦びに♡♡

旦那様あ♡
もっろあ♡
もっろして♡

しゅき♡
キス♡
しゅき♡

